

2019年度第2四半期決算説明会における主な質疑応答

※ 説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、簡潔にまとめております。

【会社全体に関するご質問】

<天神地区再開発について> (決算説明会資料P28・29参照)

Q 天神地区の商業施設・オフィステナントの引き合いや再開発の進捗状況を確認したい。

A 天神地区の商業施設・オフィスの需要は引き続き高い状況にある。福ビル街区建替プロジェクトは、福岡ビル・天神コア部分に加え、隣接地を含めた一体開発を目指し協議を進めている。旧大名小学校跡地活用事業は、ホテルではリッツ・カールトンが内定しており、オフィステナントの引き合いも含め順調である。

<韓国人旅行者減少の影響・見通しについて>(決算説明会資料P18・P30参照)

Q 韓国人旅行者減少の影響・見通しについて(バス事業・ホテル事業)

A 九州では韓国からの入国者が訪日外国人の半数を占めているため、この数か月で特に韓国人旅行者減少の影響が出ている。ホテル事業ではその他の国や国内旅客で補えている部分があり、バス事業でも、その他の国などへの営業を行っていく。

上期では、バス事業で高速バスの大分線や湯布院線の利用減少で約7千万円の減収、ホテル事業で福岡・大阪などの宿泊客減少で約1億円の減収があった。下期は今の状況が続くと想定しており、バス事業で2億円の減収、ホテル事業で1億円の減収があると見込んでいる。

Q 韓国人旅行者減少の影響・見通しについて(福岡国際空港株式会社[持分法])。

A 免税店売上などで韓国人旅行者減少の影響がでている。下期に福岡国際空港株式会社を含めた持分法投資損益全体で、約7億円の減少を織り込んでいる。

韓国人旅行者の回復や、その他の国からの路線誘致が課題であるが、中国等からの路線の需要は高く中期的には対応が可能であると考えている。また、2020年1月末の並行誘導路二重化供用開始による発着回数の増加や、既存建物での商業面積の増床などの効果に期待できる。

< 第15次中期経営計画の進捗について >

Q 九州旅客鉄道(株)との連携について伺いたい(決算説明会資料P39・40参照)

A 九州旅客鉄道(株)と地域における移動の全体最適化のために連携した取り組みを推進することで合意した(2019年10月リリース)。鉄道とバスのスムーズな乗り継ぎや、中長期的にはMaaS(Mobility as a Service)分野で、公共交通だけでなく、自動車、自転車、徒歩などを含めて最適な移動手段の提供を目指して研究していく。

Q 住宅事業・ホテル事業で、アジア展開の進捗について伺いたい(決算説明会資料P34・35参照)

A 住宅事業では、ベトナムにおいて、一部当局の認可遅れがあるが、販売は非常に好調である。インドネシア、アメリカでも概ね順調である。また、ホテル事業の開発は予定通りに進捗している。

Q 住宅事業で、首都圏でのマンション用地取得の進捗・見通しについて伺いたい
(決算説明会資料P36・37参照)

A 本中計最終年度(2021年度)での首都圏マンション供給戸数(446戸予定)について、現時点で用地の取得が完了しており、想定した粗利を確保できると考えている。

【各事業に関するご質問】

<国際物流事業に関して> (決算説明会資料P11・38参照)

Q 米中通商問題の西鉄グループへの影響について、現況と見通しについて伺いたい。

A 米中通商問題の影響により航空・海運ともに厳しい状況にあるが、海運は船会社からの調達強化やパートナーシップの強化などにより取扱高は増加している。航空は米中通商問題の影響により、特に日本は中国向けの自動車関連・半導体関連部品の取扱高が減少しており、下期までこの傾向は続くと考えている。

以上